

サラ・ポーリー

Sarah Polley

生年月日 1979/01/08

出身地 カナダ／オンタリオ州トロント

ダイアン・ポーリー (母)

関連人物 デヴィッド・ワーンズビー

マイケル・ポーリー (父)

【バイオグラフィ】

■両親ともに役者（母は彼女が11歳の時にガンで亡くなった）という家庭に生まれ、早くから子役として活躍してきた彼女ではあるが、その名を一躍世界中の映画ファンに知らしめたのは、彼女が9歳のときの出演作「バロン」（テリー・ギリアム監督）での少女サリー役であった。その後、TVシリーズ「アボンリーへの道」など順調にキャリアを積み重ねてきたサラは、「エキゾチカ」で見出されたアトム・エゴヤン監督の下で主演した「スウィート・ヒアアフター」で繊細かつ奥深い演技をみせ、各方面から高い評価を受ける。この作品が子役から本格女優への転機となり、以後「go」「写真家の女たち」など単なるアイドル女優とは一線を画すこだわりの作品選びで着実に映画界での地歩を固めている。容貌ばかりでなく、こうした姿勢もあってか、かつては“ヤング・ユマ・サーマン”と呼ばれたことも。小さな頃から政治方面での言動も活発で、湾岸戦争中の12歳の時には、ディズニー作品「アボンリーへの道」で子役を対象にした授賞式に出席した際、ディズニー幹部の制止を無視して平和をアピールする衣装を着続けディズニーを怒らせた（以来、ディズニーのブラックリストには彼女の名が刻み込まれているという）。高校に入ってから本格的政治活動にのめり込み（そのため学校も中退）、ある政治デモに参加した際には警官と衝突、奥歯を2本折るという武勇伝まで持っている。ハリウッド嫌いを公言する彼女は、現在もカナダを中心に女優の活動を続ける一方、99年には、短編映画「Don't Think Twice」で監督・脚本デビューを果たすなどさらに活躍の場を広げている。03年にはオリジナルのファンということもあり「ドーン・オブ・ザ・デッド」で久々のハリウッド大作に出演を果たした。03年9月、長年の恋人で編集マンのデヴィッド・ワーンズビーとめでたくゴールイン。06年、「アウェイ・フロム・ハー 君を想う」で念願の長編監督デビューを果たす。

【フィルモグラフィ】

ウーマン・トーキング 私たちの選択 (2022)	監督, 脚本
またの名をグレイス (2017)	製作総指揮, 脚本
物語る私たち (2012)	監督, 出演
テイク・ディス・ワルツ (2011)	監督, 製作, 脚本
ミスター・ノーバディ (2009)	出演 : エリース
スプライス (2008)	出演 : エルサ
ジョン・アダムズ (2008)	出演
アウェイ・フロム・ハー 君を想う (2006)	監督, 脚本
あなたになら言える秘密のこと (2005)	出演 : ハンナ・アミラン
アメリカ, 家族のいる風景 (2005)	出演 : スカイ
ベオウルフ (2005)	出演
シュガー (2004)	出演
ドーン・オブ・ザ・デッド (2004)	出演 : アナ
Re : プレイ (2003)	出演 : クレア
死ぬまでにしたい10のこと (2003)	出演 : アン

LUCK／ラック (2003)	出演
めぐり逢う大地 (2000)	出演 : ホープ
悪魔の呼ぶ海へ (2000)	出演
写真家の女たち (1999)	出演 : ハーパー・スローン
イグジステンズ (1999)	出演
g o (1999)	出演 : ロナ
スウィート ヒアアフター (1997)	出演
アボンリーへの道 (シーズン7) (1996)	出演 : セーラ・スタンリー
アボンリーへの道 (シーズン6) (1995)	出演 : セーラ・スタンリー
エキゾチカ (1994)	出演
アボンリーへの道 (シーズン5) (1994)	出演 : セーラ・スタンリー
アボンリーへの道 (シーズン4) (1993)	出演 : セーラ・スタンリー
アボンリーへの道 (シーズン3) (1992)	出演 : セーラ・スタンリー
アボンリーへの道 (シーズン2) (1990~1991)	出演 : セーラ・スタンリー
アボンリーへの道 (シーズン1) (1990)	出演 : セーラ・スタンリー
ぞうのババール (1989)	声の出演
丘の家のジェーン (1989)	出演
バロン (1989)	出演 : サリー
ビッグタウン (1987)	出演
愛と希望の大地 (1986)	出演
クリスマスに届いた愛 (1985)	出演